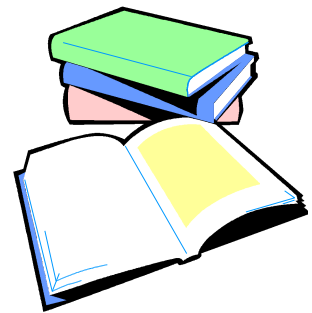


佐賀県教育センター

論文表記上の参考資料



(R 7. 3 改訂)

1 表記上の注意

(1) 漢字、仮名等の表記

漢字、仮名等の表記は次による。

- ア 漢字 常用漢字表（平成22年内閣告示第2号）の本表及び付表
イ 仮名遣い 現代仮名遣い（昭和61年内閣告示第1号）
ウ 送り仮名 送り仮名の付け方（昭和48年内閣告示第2号、昭和56年内閣告示第3号）
エ ローマ字 ローマ字のつづり方（昭和29年内閣告示第1号）
オ 外来語 外来語の表記（平成3年内閣告示第2号）

また、「学習指導要領」、各教科・領域の「学習指導要領解説」の記述に準ずる。

※ 留意する表記や用語（小・中・高等学校の『学習指導要領』『学習指導要領解説』等から）

児童のよい点	互いのよさ	児童生徒	よりよく	デジタル化	道徳科	コンピュータ
アイデア（小：図画工作，中：美術，高：芸術，情報など）				アイディア（中：英語、高：英語など）		
コミュニケーション	ハードウェア		レクリエーション	ボランティア		

(2) 「・」とする表記

小・中・高等学校の『学習指導要領解説総則編』に見られる表記を参考にする。

主体的・対話的	見方・考え方	資質・能力	体育・健康	体系的・継続的
興味・関心	横断的・総合的	合科的・関連的	基礎(的)・基本(的)	健康・安全
改善・克服	家族・家庭	基礎的・基本的	国家・社会	編成・実施
評価・改善	産業・経済	能力・適性	役割・立場	教材・教具
問題発見・解決	把握・分析	知・徳・体	アクティブ・ラーニング	
教育内容・方法	連携・協働	実践的・体験的	※観察・実験（観察，実験）	
技術・技能	改善・充実	組織的・計画的	※知識・技能（知識及び技能）	

* 上記の表現については、原則である。したがって、前後の文章によって判断する。

(3) 句読点の使用

- ・読点は「，」または「、」を使用し、一つの論文中で統一する。（引用文内の読点もどちらかに統一する。）
- ・特に、接続詞のあとには、読点を打つ。【例】「また～」→「また，～」 「そして～」→「そして，～」
- ・長い文については、句点を打ち、幾つかの文に分ける。

(4) 数詞の扱い

- ・基本的に、序数として使う場合は算用数字とし、慣用的な語は漢数字とするが、同一論文中で表記が統一されていればよい。（以下は、学習指導要領内で使用されている表記例）

1 学年	1 単位時間	1 年間	一人一人	役割の一つ	一つ一つの動き	二つ目は
3 点目	次の 2 点に	2 語	第三に	二つの課題	二点説明する	一斉に
2 学年間	2 文	第 2 表	二種類	三つの柱	二人三脚	三者が

- ・1 桁の数字は全角，2 桁以上の数字は半角で表記する。（3 人，25 分，100 メートル）

(5) その他

「話し言葉」調の記述ではなく、「書き言葉」として記述する。（ただし、児童生徒の発言やワークシートの記述などはこの限りでない）

2 研究論文のまとめ方と記入例

(1) 文書作成時の設定

ア 研究計画書、研究紀要などの文書は、特に指定がない限り、次のように様式設定をする。

用紙サイズ	: A 4 判, 縦用紙, 横書き
1 ページ字数	: 46字×42行
フォント	: 項目と本文で使い分ける。 <例 1> 項目: ゴシック体, 本文: 明朝体 <例 2> 項目: UDデジタル教科書体N-B, 本文: UDデジタル教科書体N-R 英単語等にはcentury等を用いてもよい。
フォントサイズ	: 10.5ポイント
余白	: 上余白20mm, 下余白25mm, 左右余白18mm
表記	: この「佐賀県教育センター論文表記上の参考資料」に準ずる ※ 表内の行数や行間は、特に指定はない。 ※ 図や表の中の文字、図表のタイトルの文字については、8ポイント以上とする。

イ 文字詰めの初期設定

・ ワードの場合

ファイル→オプション→文字体裁を開き、「カーニング」の「半角英字と区切り文字」及び「文字間隔の調整」の「句読点のみを詰める」にチェックを入れる。

・ 一太郎の場合

ファイル→文書スタイル→スタイル→体裁タグより、「和文体裁」の中の「禁則処理」、「追い込み」、「括弧類の重なり処理」にチェックを入れる。

(2) 項目、タイトル、書き出しなど

項目の記号は、必要に応じて下記の使用順序で用いる。

大項目	→	次項目	→	(順次下位項目が必要な場合→)		
1 (全角)		(1) (半角)		ア (全角)	(ｱ) (半角)	a (全角) (a) (半角)
2		(2)		イ	(ｲ)	b (b)
3		(3)		ウ	(ｳ)	c (c)

[文章の中で項目分けが必要な場合は、①, ②, ③, または i, ii, iii 等を使用する。]

項目 1 までは項目用のフォントを用いる (原則)									
1		研	究	の	～				
(1)		研	究	の	～				
		ア	研	究	の	～			
		(ｱ)	研	究	の	～			
			a	研	究	の	～		
			(a)	研	究	の	～		
(a)	←								

* 番号等の付け方は、左の例に準ずる。

* そのページの項目が (a) などの下位項目しかないときは、左詰にする場合もある。

(3) 図や表の挿入

図や表などの掲載については、下記のとおりとする。また、タイトル名は項目用のフォントを用いる。

図・表などが一つしかない場合も、**図 1**、**表 1** などとする。

図・資料の場合……図・資料の下に(センタリング)

表の場合……表の上に(センタリング)

(図)
絵、地図、グラフ
構造図など

図 1 ■タイトル

(資料)
写真、児童の感想
ワークシートなど

資料 1 ■○○○○○○
○○○○○○○

※タイトルが長い場合

(表)
記録や調査結果を示す
表など

表 1 ■タイトル

※ センタリングし、全角1文字分空ける。(■は全角スペースを表す)

本文中で図・表などについて言及するときの表記

◇ 本文中では、ゴシック表記。

＜例＞ 実験の様子を**表 5**に示した。

・・・を作成し(資料 4),使用した。

「・・・」(図 3)という質問について、

◇ 文末に示す場合。

＜例＞ 「・・・」と記述している(資料 6)。

◇ 図・表などが別のページにある場合。

＜例＞ 前頁資料 4を基に、・・・

学習過程を次ページ表 1に示す。

カード(p.17資料 8)を活用し、

◇ 図・表などの一部分を示したい場合。

＜例＞ 資料 5の枠囲み部のように

表 1の下線部から、・・・

前ページ表 1の 1, 2のように

(4) 引用の仕方

ア 引用の示し方

文章中の該当箇所の右肩に⁽¹⁾、⁽²⁾(上付1/4倍)の通し番号で示す。※⁽¹⁾括弧、数字すべて半角

＜例＞ ……であるが、梶田叡一は、「○○○……」⁽¹⁾と述べている。

巻末の引用文献欄には、右肩に示した番号を最初に示すことで、引用した書籍や紀要と対応させる。

イ 引用者名の表記

論文中で他の論者の文を引用する場合、初出時にはフルネームで記載。二度目からは姓だけでよい。ただし、同姓の者が複数いる場合は二度目以降もフルネームで記載する。

ウ 引用文には、「」の引用記号を用いる。

前後の文を省略する場合は、「…」(3点リーダー)を2文字分入れる。→「……」

＜例＞ 「○○○……」(後略の場合)「……○○○」(前略の場合)

引用文中に「」の記述がある場合は、『』に置き換える。（「○○『○○』○○」）

引用は原文と一字一句違わないようにする。原文の誤植も「ママ」と示し、そのまま記入する。

＜例＞ 「……^{ママ}○○……」（○○は誤植の部分を表す）

エ 長い引用の場合は別の段落にし、左右を1文字分空けておく。

オ 間接引用はなるべく行わないようにする。原文がいろいろと解釈される場合もあるので、直接引用の方がよい。

(5) 引用及び参考文献の書き表し方

ア 著者名、書籍名、発行年、出版社名（引用の場合はページ数も）の順で書く。

イ 引用のページは、そのページのみ場合はp. 7、複数ページの場合はpp. 14-17のように書く。pと-（ハイフン）、.（ピリオド）は半角とする。記述例（1）参照。

ウ 編集した人、著作し編集した人についても、「○○編」「○○編著」と正確に示す。

エ 書籍名には『』を付ける。

論文の場合は「」, その論文集（雑誌名）は『』と併記する。記述例（2）参照。

なお、答申は、『』, 教育センターのコンテンツも『』を使用する。

オ 発行年は著作物に書かれている表記を用いる。（西暦なら西暦、元号なら元号）

西暦の場合は、半角数字とする。

元号の場合は、令和9年までは全角数字、10年以降は半角数字とする。

カ 引用文献の記述例

《引用文献》

(1) ■■■ 山田■一郎編著 『総合学習のあり方』 ■1997年 ■教育書店 ■pp. 142-144 （または、p. 142）

(2) ■■■ 佐賀■太郎 『総合的な学習の時間における協働学習の取り入れ方に関する研究』『川上
大学大学院教育実践論文集』 ■2017年10月号

(3) ■■■ 佐賀県教育センター ■『平成25・26年度「プロジェクト研究」小・中学校社会科』 ■平成26年3月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h26/01_syakai/toppage.htm

(4) (5) ■大和■春子 『どうつくる、探究活動』 ■2019年 ■佐賀書店 ■p. 8, p. 25

《参考文献》

・鈴木■健一編著 『総合学習の理論』 ■2011年 ■大和書房

・浦川■仁一朗・森山■義太郎 『国語科の授業づくりを探る』 2013年 北館出版社

・松尾■信 『問題解決の過程において数学的な思考力を育む指導方法を探る』 ■2017年 ■
教育図書社

・佐賀県教育センター 『理科力向上サポート事業』
<http://www.saga-ed.jp/chouken/rikasaport/risapotop.html>

1行で書けない場合は、
2行にまたがってよい。

引用、参考それぞれの頭をそろえる。

書名の開始位置をそろえる。書名
でなければ2行目は、『の真下から開
始する。

参考にしたWeb資料も、参考文献として記す。URLは、頭をそろえる。

3 その他、表記上の注意

- ・項目を表す番号，アルファベットの後は**1マス空ける**。
- ・記号(○，・など)の後はスペースを空けなくてもよい。空けない場合は，2行目以降の文頭は1行目の文頭にそろえる。
- ・半角英数字は，centuryやTimes New Romanに自動変換する場合があるので注意する。
悪い例… PISA 学力調査，2017 年，ALT，45 分授業など
- ・英字は次のような表記にする。(原則)
英文や単語は，半角で，語頭・文頭だけ大文字を使う。
＜例＞ Web, “What's this?”
単語の頭文字を組み合わせる意味を成すものは，全角で，全て大文字を使う。
＜例＞ ALT, TT, ICT
- ・英文を入れる場合は，カギ括弧(「○○」)ではなく，quotation mark (“○○”) でくくる。
- ・動詞として漢字表記をするものも，補助用言として使う場合は仮名表記とする。
＜例＞ [お菓子を頂く・発表していただく] [資料を下さい・お座りください]
[資料が欲しい・発表してほしい]
- ・網掛けは，濃淡に注意する。
- ・「」に文章が続く場合は，句点(。)を付けない。ただし，「」内に複数の文章がある場合は，最後の文より前の文には句点を付ける。
＜例＞
……本時の課題を次のように設定した。「じしゃくにつくものつかないものを調べよう。」
(「」の後ろに文章が続かないので，句点を付ける。)
……事前のアンケートの中でA児は，「どう接していいかわからない」と答えていた。
(「」の後ろに文章が続くので，句点を付けない。)
……B児は，「ピーカーの下の方は冷たいよ。水は上の方から温まってくみたいだ」とつぶやいていた。
(「」に複数の文章があるときは，最後の文だけ句点を付けない。)
- ・文中(箇条書きを含む)の()，「」は**全角**とする。
ただし，項目を表す場合や引用の場合は半角である。例：(1)
- ・％，℃は全角，mm，cm，m，mL，dL，L，g，kgは半角。

4 研究論文の表記について

表中の、△は表外漢字・常用漢字外。〔 〕は望ましい語句、＊は許容を示しています。

見出し	表記	備考	あと	あと（副詞） あと（接続詞）	あと三分 あと、～ ～したあと 苦心の跡、跡目 傷痕 余りが出る 余りにも △予め 改めて～する △所有 言葉に表す 姿を現す 書物を著す 喜びの表れ 太陽が現れる △在り処、在処 有り難み ある日 そこに問題がある 財源が有る 有り・無し 本社は東京に在る 書いてある △或いは 併せてお願いする あわせて、～
【あ】					
あいさつ	挨拶			跡	
あいだがら	間柄			痕	
あいにく	あいにく	△生憎	あまり	余り	
あいまい	曖昧		あらかじめ	あらかじめ	
あいまって	あいまって	△相俟って	あらためて	改めて	
あえて	あえて	あえて～する	あらゆる	あらゆる	
あきらめる	諦める		あらわす	表す	
あくる	明くる	明くる日		現す	
あげく	挙げ句	～した挙げ句		著す	
あける	明ける	夜が明ける	あらわれる	表れる	
	空ける	時間を空ける		現れる	
	開ける	窓を開ける	ありか	在りか	
あげる	上げる	品物を上げる	ありかた	在り方	
		物価が上がる	ありがたい	有り難い	
	揚げる	船荷を揚げる	ありがとう	ありがとう	
		歓声が揚がる	ある（連体詞）	ある	
	挙げる	一例を挙げると	ある（動詞）	ある	
		国を挙げて		有る	
	～（て）あげる	図書を貸してあげる			
あこがれる	憧れる			在る	
あたかも	あたかも	△恰も		～（て）ある	
あたり	辺り	辺り一面	あるいは	あるいは	
あたりまえ	当たり前		あわせて（副詞）	併せて	
あたる	当たる	予報が当たる	あわせて（接続詞）	あわせて	
		～に当たり、	【い】		
		～に当たって、	いう	言う	
あっせん	あっせん	△斡旋 〔周旋、世話〕		～いう	
あつらえる	あつらえる	△誂える		いう	
あて	宛	宛名、宛先 各学校宛て	いえども	いえども	
あてはまる	当てはまる		いえる	言える	
あてる	当てる	日光に当てる 当て外れ	いかす	生かす	
	充てる	保安要員に充てる	いきおい	勢い	
あと	後	後で～する	いけい	畏敬	
			いく	行く	
				…（て）いく	

見出し	表記	備考		煎る	煎茶
			いろいろ	いろいろ	△色々
			いわば	言わば	
いくつ	幾つ		いわゆる	いわゆる	△所謂
いくら	幾ら	幾ら考えても 全部で幾らか	いわんや	いわんや	△況や 〔言うまでもなく〕
いしゆく	萎縮		【う】		
いす	椅子		うえ	上	作成する上で
いずれ	いずれ	△何れ	うかがう	うかがう	△窺う
いだく	抱く	△懐く			成長がうかがえる
いたす	致す	致し方ない 繁栄を致した原因	うかがう (聞く, 尋ねる, 訪問するの謙譲語)	伺う	10時に伺います
	～いたす	御案内いたします	うた	唄	長唄, 小唄
いたずら	いたずら	いたずらに時間を 費やす	うたう	うたう	条文にうたってある
			うち	内	部屋の内
いただく	頂く	御返事を頂きたい		うち	そのうち
	～(て)いただく	報告していただく			～のうち
いたって	至って	至って～である			知らないうちに
いたる	至る	東京に至る 至る所に	うちわけ	内訳	
			うつ	打つ	リズムを打つ
いちじ	一時	一時の出来心	うながす	促す	
いちず	いちず	いちずに思う △一途	うやうやしい	恭しい	
			うらやましい	羨ましい	羨望
いちづける	位置付ける	△位置づける	うらやむ	羨む	
いっこう	一向	一向に差し支えない	うんぬん	うんぬん	△云々
いっさい	一切	一切関知しない	【え】		
いっしゅう	一蹴		えさ	餌	
いっしょ	一緒	一緒に行く	える	得る	許可を得る やむを得ない
いっせい	一斉	一斉検査			
いっそう	一層	一層の努力	【お】		
いったん	一旦	一旦休憩する	お(接頭語)	お	お礼 お願いします
いっぺんに	一遍に	一遍に～する			
いまさら	今更		おいて	おいて	△於いて ～において
いまだ	いまだ	△未だ			
いやしくも	いやしくも	△苟も	おうせい	旺盛	旺盛
いる	入る	気に入る 手に入れる	おおいに	大いに	大いに利用する
			おおかた	大方	大方の意見 大方まとまる
	要る	保証人が要る			
	居る	居場所, 居所	おおぜい	大勢	
	いる	関係者がいる ～している	おおむね	おおむね	△概ね
			おおよそ	おおよそ	△大凡

見出し	表記	備考	【か】		
			か	か	3 か月 (1, 2 か月)
				箇	二, 三箇所
		おおよそ 2 か月く	かじょうがき	箇条書	
		らい	かい	かい	△甲斐
おかげ	おかげ	△お蔭			～したかいがあつて
		おかげで～	がいして	概して	概して良好である
おこない	行い	△行ない	かいしょ	楷書	
おこなう	行う	調査を行う	かいよう	潰瘍	潰す
		△行なう	かえって	かえって	△却って
おくびょう	臆病	臆する			かえって不便になる
おさめる	収める	目録に収める	かえりみる	顧みる	過去を顧みる
	納める	注文の品を納める		省みる	自らを省みる
	治める	領地を治める	かえる	変える	観点を変える
	修める	学を修める		換える	名義を書き換える
おそらく	恐らく			替える	振り替える
おそれ	おそれ	～のおそれがある		代える	書面をもって挨拶
おそれ	畏れ	畏れ多い言葉			に代える
おって (副詞)	追って		かかる	かかる	△斯る
おとさた	音沙汰	〔便り, 音信〕			〔このような〕
おとな	大人			かかる	△罹る
おのおの	各, 各々				病気にかかる
おのずから	おのずから	△自ら		係る	～に係ること
		おのずから理解で			△関る
		きる	かかわり	関わり	△～にも関わらず
おびたしい	おびたしい	△夥しい	かかわる	関わる	
おぼしめし	おぼしめし	△思召し	かく	描く	国境線を描く
おぼつかない	おぼつかない	△覚束ない	かぐ	嗅ぐ	嗅覚
おもしろい	面白い		がけ	崖	断崖, 崖下
おもに	主に		かける	掛ける	迷惑を掛ける
おもむき	趣				時間を掛ける
おもむく	赴く	任地に赴く			費用を掛ける
おもわく	思わく	△思惑		懸ける	優勝を懸ける
およそ	およそ	△凡そ			賞金を懸ける
および (接続詞)	及び	A 及び B		架ける	橋を架ける
およぼす	及ぼす				電線を架ける
おり	折	その折	かこく	苛酷	* 過酷
おりから	折から	△折柄	かする	課する	税を課する
おる	おる	△居る		科する	刑を科する
		～しております	かたがた	かたがた	お礼かたがた
おわり	終わり	△了	かたづけ	片付け	
			かたづける	片付ける	

見出し	表記	備考	きたる	来る	来る○月○日
きたる			きづき(きづく)	気付き(気付く)	△気づき(気づく)
きはく			きふ	希薄	△稀薄
きまり			きふ	寄附	
			きまり	きまり	きまりに関する
				決まり	決まり方
きゅうかく			きゅうかく	嗅覚	
きゅうきょ			きゅうきょ	急きょ	△急遽
きゅうし			きゅうし	臼齒	
きる			きる	切る	
きる			きる	斬る	世相を斬る
きわまる			きわまる	窮まる	進退窮まる
					窮まりなき宇宙
				極まる	不都合極まる言動
きわめて			きわめて	極めて	極めて大きい
きわめる			きわめる	極める	見極める
				究める	学を究める
きんさ			きんさ	僅差	
【く】					
ください			ください	下さい	資料を下さい
				ください	御指導ください
					御覧ください
				～(て)ください	問題点を話してください
くだす			くだす	下す	判決を下す
くみあわせる			くみあわせる	組み合わせる	
くみたてる			くみたてる	組み立てる	
くむ			くむ	酌む	酒を酌む
					事情を酌む
くらい			くらい	位	位する
					位取り
				～くらい(ぐらい)	どのくらい
くらべる			くらべる	比べる	△較べる
くる			くる	来る	人が来る
				～(て)くる	寒くなってくる
くれぐれも			くれぐれも	くれぐれも	△呉々も
くれる			くれる	くれる	△呉れる
				～(て)くれる	資料をくれる
					援助してくれる
くろうと			くろうと	玄人	
かたわら					
がち(接尾語)					
かつ					
かつきてき					
かつこ					
かつて					
かつて					
かつとう					
かつぱつ					
かな					
かなう					
かなた					
かならず					
かまう					
がまん					
かもしれない					
からめる					
かろうじて					
かんがみる					
かんげき					
かんじん					
かんする					
かんぺき					
【き】					
きがかり					
きぐ					
きする					
きそん					
きたす					

見出し	表記	備考			(～に応じる)
【け】			こっけい こと	滑稽 事	事を起こす 事に当たる
げ(接尾語)	～げ	惜しげもなく △～気		～こと	許可しないことがある
けいがいか	形骸化		ことがら	事柄	次の事柄について
けいもう	啓もう	△啓蒙〔啓発〕	ごと	～ごと	△毎
けた	桁	3 桁, 橋桁	ごとく	ごとく	△如く 〔ように〕
けっこう	結構	結構な品物 結構です	ことさら	殊更	殊更～する
	けっこう	けっこう役に立つ	ことなる	異なる	意見が異なる ～を異にする
けんさん	研さん	△研鑽	ことに	殊に	殊に優れている
けんそん	謙遜		ことのほか	殊の外	
けんばん	鍵盤		こども	子供	
【こ】			こどもたち	子供たち	
ご(接頭語)	御～	御案内 御調査のほど	ことわる	断る	断りの手紙
	ご～	ごあいさつ ごべんたつ (仮名書きの場合)	このごに～ このような ごぶさた	この期に～ このような 御無沙汰	この期に及んで
ごい	語彙		こむ	混む	電車が混む
こう	乞う	雨乞い		込む	読み込む
こうばい	勾配		こもる	籠もる	閉じ籠もる
ごうまん	傲慢		ころ	頃	日頃
こうむる	被る	損害を被る	こんてい	根底	
こうよう	高揚	△昂揚	コンピュータ	コンピュータ	△コンピューター
こえる	越える	山を越える 年を越す 10万円を超える額 1000万人を超す人口	【さ】		
	超える		ざせつ	挫折	
			さいはい	采配	
			さいわい	幸い	幸いだ 幸い間に合った
こかんせつ	股関節		さかのぼる	遡る	
ごく	ごく	△極 ごく新しい	さき	先	先に立つ 先取り, 先んずる
こけつ	虎穴		さきに	さきに	さきにお知らせ
こころがけ(る)	心掛け(る)		さきほど	先ほど	△先程
ごぞんじ	御存じ	△御存知 御存じですか	さげすむ	蔑む	
			ささいな	ささいな	△些細な
こたえ(名詞)	答え		ささげる	ささげる	△捧げる
こたえる	答える 応える	質問に答える 要望に応える	さしあげる	差し上げる	
			さしあたり	差し当たり	

見出し	表記	備考			
さしえ	挿絵		しかた	仕方	仕方がない
さしかかる	差し掛かる		しかる	叱る	※叱責, 叱咤
さしさわり	差し障り		しくみ	仕組み	機械の仕組み
さしず	指図		しげき	刺激	
さしずめ	さしずめ	△差し詰め さしずめ計画どおりに実施する	しごく	至極	至極もつともである
さしだす	差し出す	紹介状を差し出す	しさい	子細	△仔細 子細があつて
さしだしにん	差出人		しじゅう	始終	始終～する
さしつかえる	差し支える		しだい	次第	式次第 ～する次第である
さしつかわす	差し遣わす		したがう	従う	法律に従う
さすがに	さすがに	△流石に	したがって(接続詞)	したがって	△従って したがって, ～
ざせつ	挫折		じつに	実に	
さっきゅう	早急	早急に手配する	しばしば	しばしば	
さっそく	早速	早速送付する	しばらく	しばらく	△暫く
さばく	さばく	△捌く 品物をさばく	しぼる	絞る	手ぬぐいを絞る
	裁く	罪人を裁く		搾る	絞り染め 乳を搾る
さほど	さほど	さほど重要でない			搾り取る
さまざま	様々		しまつする	始末する	書類を始末する
さらい～	再来～	再来週, 再来月, 再来年	シミュレーション	シミュレーション	×シュミレーション
さらなる(連体詞)	更なる(連体詞)		しめきり	締切り	申込みの締切り
さらに(副詞)	更に	更に検討する			締切日
さらに(接続詞)	さらに	さらに, ～	しやりよう	車両	△車輛
さる	去る	去るに当たって 去る○日	しゅうちしん	羞恥心	
さわやか	爽やか		じゅうぶん	十分	△充分
さわる	障る	気に障る 差し障る	じょうず	上手	
	触る	展示品に触る 手触りがよい	じょうぶ	丈夫	丈夫な体
さんけい	参詣		しょせん	所詮	
ざんしん	斬新		しりぞける	退ける	△斥ける
さんろく	山麓		しろうと	素人	
【し】			しんし	真摯	
しあわせ	幸せ		しんしょく	侵食	△侵蝕
しいて	強いて		しんせき	親戚	
しいてき	恣意的		じんだい	甚大	被害甚大
			しんちよく	進捗	
			じんもん	尋問	△訊問

見出し	表記	備考			川沿いの家
				添う	連れ添う 付き添い
【す】			そうかい	爽快	
すいせん	推薦		ぞうきん	雑巾	
ずいぶん	随分	随分早く着いた	そうごう	総合	△総合
すえおき	据置き		そうじて	総じて	
すえおく	据え置く		そうそうに	早々に	
すき	隙	隙間	そうてい	装丁	
すぎない	すぎない	～にすぎない	そうとう	相当	部長に相当する 相当難しい
すぎる	過ぎる	期限が過ぎる			
すくなくとも	少なくとも		そうにゆう	挿入	
すぐに	すぐに	△直に	そうめい	そうめい	△聡明 〔賢明、賢い〕
すぐれる	優れる	△勝れる			
すこし	少し		そち	措置	
すすめる	進める	交渉を進める	そっせん	率先	
	勧める	入会を勧める	そば	そば	△側、△傍
	薦める	候補者として薦める	そまつな	粗末な	
		る	それ	それ	それぞれ、それら それゆえ
ずつ	ずつ	1つずつ 少しずつ	そろう	そろう	△揃う *品揃え
すでに	既に	既に完成している			それがよいと存じ ます 御存じの～
すなわち	すなわち	△即ち	ぞんずる	存ずる	
すばらしい	すばらしい	△素晴らしい			
すべて	全て	△総て			
すみやかに	速やかに	速やかに実施する	【た】		
すりあわせる	擦り合わせる		た	他	その他
すわる	座る	座り込む	たいがい	大概	大概大丈夫だろう
	据わる	目が据わる	たいした	大した	大したことはない 大して参考にならない
【せ】					
せいとん	整頓				
せっかく	せっかく	△折角	だいじょうぶだ	大丈夫だ	もう大丈夫だ
せつに	切に	切に祈る	たいせき	堆積	
ぜひ	是非	是非を論ずる 是非お願いします	たいせつに	大切に	大層明るい
せん	栓	消火栓	たいそう	大層	大体よい
せん	腺	涙腺，前立腺	だいたい	大体	大体のところは
せんさく	詮索		たいてい	大抵	大抵のことは分かる
せんぼう	羨望		たいとう	台頭	
【そ】			だいぶ(ん)	大分	大分増えた
ソ・ソウ	曾(曾)	曾祖父	たいへん	大変	大変な人手
そう	沿う	意見に沿う	たえず	絶えず	絶えず行き来する

見出し	表記	備考	だれ	誰	
			【ち】		
たがいに	互いに	互いに励まし合う	ちいさな	小さな	
たぐい	類い		ちかごろ	近頃	
たくさん	たくさん	△沢山	ちかづく	近付く	△近づく
たけ	丈	身の丈 思いの丈を述べる	ちくいち	逐一	逐一報告する
だけ	～だけ	調査しただけである	ちなみに	ちなみに	△因みに
たしょう	多少	多少早くなる	ちなむ	ちなむ	△因む
たずねる	尋ねる	由来を尋ねる 尋ね人	ちみつ	緻密	
	訪ねる	知人を訪ねる 史跡を訪ねる	ちょうだい	頂戴	
ただ	ただ	△唯、只	ちょうど	ちょうど	△丁度
ただし(接続詞)	ただし	△但し	ちょっと	ちょっと	△一寸
ただちに	直ちに		ちんでん	沈殿	△沈澱
たち(接尾語)	～たち	△達 子供たち、私たち ※友達…熟語として漢字	【つ】		
			ついたち	一日 *12月1日	※月の始めの日という慣用句的扱い
			ついで	次いで	
			ついでに	ついでに	ついでに仕事も頼む
			ついては(接続詞)	ついては	△就いては ついては、～
			ついに	ついに	△遂に ついに完成する
たちのく	立ち退く	立ち退き			
たちまち	たちまち	△忽ち	つかう	使う	機械を使う 重油を使う
たつ	断つ	退路を断つ		遣う	心を遣う 気を遣う 小遣い銭 仮名遣い
	絶つ	縁を絶つ 消息を絶つ			差し遣わす
	裁つ	生地を裁つ			折り紙付き
たて	盾	△楯			尾頭付き
たとえば	例えば		つかわす	遣わす	顔つき、目つき
たのもし	頼もしい		つき	～付き	体つき
たび	度	度重なる 度々 このたび ～するたび	つぎ	次	次のとおり
たぶん	多分	多分～であろう			次々と
たまわる	賜る		つく	付く	△附く
ため	ため	△為 ために ～のため			利息が付く 味方に付く
だめ	駄目	駄目を押す		着く	手紙が着く
ためす	試す	切れ味を試す			船を岸に着ける

見出し	表記	備考	【て】		
			てあて	手当	手当を支給する
				手当て	傷の手当て
			ていしょく	抵触	
			ていねい	丁寧	
つぐ	次ぐ	事件が相次ぐ	ておくれ	手後れ	
		取り次ぐ	てがかり	手掛かり	
	継ぐ	跡を継ぐ	でかける	出掛ける	
		引き継ぐ	でき	出来	出来心, 出来事
	接ぐ	木を接ぐ			出来上がる
		接ぎ木			出来上がり
つくる	作る	おもちゃを作る			出来が良い
つくる	造る	船を造る	～でき	～出来	上出来, 不出来
つくる	創る	新しい文化を創り出す	デキ	*溺	*溺愛
			できる	できる	△出来る
	つくり	*課題づくり *授業づくり			利用できる
づけ	～付け	○月○日付け	てぎわ	手際	手際が良い
		日付	てごろ	手頃	手頃な大きさ
つける	付ける	条件を付ける	てだて	手立て	△手だて
		付け替える	てはず	手はず	△手筈
		関連付ける			手はずを整える
つごう	都合	都合で	てびき	手引	指導の手引, 手引書, 手引きをする
		都合○名			△手許
つたない	拙い		てもと	手元	
つつしむ	慎む	身を慎む	【と】		
つづる	つづる	△綴る	といあわせ	問合せ	問合せをする
		文をつづる	といあわせる	問い合わせる	
		書類をつづり込む	～とう	～等	「など」と読ませたいときは仮名
*ぶんしょつづり	*文書綴り				
つど	都度	その都度	とうがい	当該	
つとめて	努めて	努めて早起きする	どうくつ	洞窟	
つとめる	努める	解決に努める	どうし	同士	児童同士
	勤める	会社に勤める	どうじょう	同上	
	務める	議長を務める	とうてい	到底	到底できない
		主役を務める	とうとう	とうとう	とうとう決定した
つながる	つながる	△繋る	とおり	通り	銀座通り, 一通り
つねに	常に			～を通して	
つまずき	つまずき			～とおり	次のとおりである
つもり	積もり	心積もり			従来どおり
		※見積り	とかく	とかく	△兎角
	つもり	そのつもりだ			とにかく

見出し	表記	備考		～とも	～とともに ～するとともに 今後とも 家庭や地域とも △共
とき	時 ～とき	とにもかくにも 時の記念日 事故のときは連絡 する ～したとき	ともだち ども(接尾語) ともなう	友達 ども 伴う	私ども ～に伴って
とく	解く	問題を解く 疑いが解ける 会長の任を解かれ る	とらえる とらえる とりあえず	捕らえる 捉える 取りあえず	泥棒を捕らえる 機会を捉える △取り敢えず 取りあえず御報告 まで
	溶く	絵の具を溶く 地域社会に溶け込 む	とりあげる とり入れる	取り上げる 取り入れる	
とくに	特に		とりかかる	取り掛かる	仕事に取り掛かる
どこ	どこ	△何処	とりくみかた	取り組み方	
ところ	所 ～ところ	△処 現在のところ差し 支えない	とりくむ とりはからう とりまとめ とりもどす とりやめ とりわけ とりわけ とる	取り組む 取り計らう 取りまとめ 取り戻す 取りやめ とりわけ 取り分ける とる	△取り止め バランスをとる 形態をとる 食事をとる(する) 感じ取る アンケートを取る メモを取る 連絡を取る コミュニケーション ンを取る
ところが(接続詞)	ところが				
ところで(接続詞)	ところで				
とじる	とじる	△綴じる 紙をとじる 門を閉じる			
とつぜん	突然				
ととのえる	整える	身辺を整える 調子を整える		取る	感じ取る アンケートを取る メモを取る 連絡を取る コミュニケーション ンを取る
	調える	晴れ着を調える 費用を調える			
とどめる	とどめる	△止める, △留め る 記録にとどめる			
とというものの	とというものの			摂る	栄養を摂る
とはいえ	とはいえ			採る	会議で決を採る
とめる	止める 留める	息を止める ボタンを留める 留め置く, 書留 客を泊める		執る	事務を執る 式を執り行う
	泊める			捕る	生け捕る
とも	共	教師と児童が共に 共に(副詞) 共々(副詞)	【な】 ない	撮る 撮る ない	写真を撮る △無い 欠点がない

見出し	表記	備考			
			なるべく なるほど	なるべく なるほど	小さくなる なるべく早くする △成程
		行かない	【に】		
		有り・無し	におう	匂う	梅の花が匂う
	亡い	亡くなる	におう	臭う	生ゴミが臭う
		亡き人	にぎわう	にぎわう	△賑わう
ないし	ないし	△乃至	にくい	憎い	△～憎い, ～難しい
		北ないし北東の風			言いにくい
なお	なお	△尚, 猶	になう	担う	△荷う
		なお, ～			双肩に担う
		なおさら	にらむ	にらむ	△睨む
なか	中	箱の中, 括弧の中			にらみ合わせる
ながい	長い	長い道, 気が長い	にわか	にわか	△俄
	永い	末永く契る			にわかに事が運ぶ
なかなか	なかなか	なかなか現れない	【ぬ】		
なかば	半ば	半ば諦める	ぬぐう	拭う	
ながら	ながら	△乍ら	【ね】		
		歩きながら話す	ねりなおす	練り直す	
なごり	名残		ねらい	狙い	*授業や指導において「ねらい」と仮名表記
なさけ	情け	情けない			
なざし	名指し		【の】		
なされる	なされる	△成される	のうり	脳裏	△脳裡
なじむ	なじむ	△馴染む	のがす	逃す	逃れる
なす	なす	△為す	のける	のける	△除ける
		なすすべもない	のちほど	後ほど	後ほど連絡する
なぜ	なぜ	△何故	のっとる	のっとる	△則る
～など	～など	△等は「とう」と読む			[基づく, 従う, よる, 即する]
ななめ	斜め				
なにとぞ	何とぞ	△何卒	のばす	伸ばす	勢力を伸ばす
なにぶん	何分	何分よろしく			学力が伸びる
なみなみ	並々	並々ならぬ		延ばす	開会を延ばす
ならう	倣う	前例に倣う			支払いが延び延び
ならびに(接続詞)	並びに	(a 及び b) 並びに (c 及び d)			になる
なりたつ	成り立つ		のべる	延べる	布団を延べる
なりゆき	成り行き		のべる	伸べる	救いの手を差し伸べる
なる	成る	△為る	のむ	飲む	△呑む
		本表と付表とから	【は】		
		成る	はあく	把握	
	なる	1 万円になる	はいぜん	配膳	

見出し	表記	備考			
はいる	入る		はば	幅	△巾
はえる	栄える	見栄え, 出来栄え	はばかり	はばかり	△憚る
はがき	はがき	△葉書	はばむ	阻む	
はがす	剥がす	剥ぐ	はやい	早い	時期が早い
はかどる	はかどる	△捗る			矢継ぎ早
はからずも	図らずも		はらいもどし	払戻し	流れが速い
ばかり	～ばかり	こればかり ～するばかり	はらいもどす	払い戻す	テンポが速い
はかる	図る	合理化を図る	はる	張る	払戻金, 払戻証書
	計る	解決を図る	はれる	貼る	リンクを張る
	測る	時間を計る	はんてん	腫れる	シールを貼る
	量る	計り知れない恩恵	はんようせい	斑点	※腫らす
	謀る	距離を測る	はんれい	汎用性	
	諮る	面積を測る	【ひ】	凡例	
はぐくむ	育む	目方を量る	ひいては	ひいては	△延いては
ばくぜん	漠然	容積を量る	ひきおこす	引き起こす	△惹き起こす
ばくだい	ばくだい	暗殺を謀る	ひごと	日ごと	△日毎
はさむ	挟む	審議会に諮る	ひごろ	*日頃	
はじめ	はじめ	挟み込む	ひづけ	日付	
		各学年のはじめ	ひとかたならぬ	一方ならぬ	
		教職員をはじめ	ひとしお	ひとしお	△一入
		～をはじめとして	ひとしく	ひとしく	△斉しく
		始め-中-終わり			全員ひとしく賛成
はじめて	初めて	始め-中-終わり	ひとそろい	一そろい	した
はじめ(る)	始める	初めての経験	ひとたび	一たび	△一揃
		思考し始める	ひととお	一通り	△一度
		始めから終わりまで	ひとまず	ひとまず	△一先ず
はず	はず	△筈	ひとり	一人	一人っ子
		できるはずがない			一人一人
はずれる	外れる	町外れ, 外す	ひとわり	ひとり	△一人ひとり
		踏み外す	ひゆ	ひとり	独り占め
はたして	果たして	果たして～だ	ひよく	ひとり	△一渡り
はつらつ	はつらつ	△撥刺	ひようき	ひとり	
はで	派手			ひとり	
はなしあう(動詞)	話し合う	話し合った		ひとり	
はなはだ	甚だ	甚だ大きい		ひとり	
		甚だしい		ひとり	

見出し	表記	備考	ふんいき	雰囲気	
			【へ】		
ひらく	開く	窓を開く，未来を開く，△拓く	へいそく	閉塞	
ひろがる	広がる	△拡がる	ページ	ページ	△頁（論文中は使用することもある）
びんせん	便箋		べき	べき	△可き
ひんばん	頻繁		へきち	へき地	そうすべきである
【ふ】			へた	下手	△僻地，[辺地]
ふ	附	附則，附属，附帯	べんたつ	べんたつ	△鞭撻
	付	付記，付随，付与	【ほ】		
		付録，交付，給付	ほう	方	先方，方針，諸方
ふう	風	洋風，学者風の人	ぼうだい	膨大	君の方
	～ふう	こういうふうに造る	ほうる	放る	△厖大，[多大]
		知らないふうを装う	ほか	ほか	原則ひらがなで
ふえる	殖える	財産が殖える		他（た）	ほかの意見，ほかから探す
	増える	人数が増える		外	思いの外
ふく	拭く				*殊の外
ふさぐ	塞ぐ	塞がる	ほしい	欲しい	金が欲しい
ふさわしい	ふさわしい	△相応しい			欲しがる
ふじゅうぶん	不十分	△不充分		～してほしい	見てほしい
ふせん	付箋		ほそく	補足	
ふたび	再び			捕捉	人工衛星を捕捉する
ふだん	ふだん	△普段			
		ふだん考えていること	ほど	程	程遠い，程なく
ふっしょく	払拭	拭く，拭う		ほど	身の程
ふまえ	踏まえ	～を踏まえて			先ほど，後ほど
ふりがな	振り仮名			～ほど	今朝ほど
ふるう	振るう	腕を振るう	ほとんど	ほとんど	少ないほど良い
		事業が振るわない	ほにゅうるい	哺乳類	△殆ど
	震う	声を震わせる	ほぼ	ほぼ	△略
		身震い	ほまれ	誉れ	
	奮う	勇気を奮う	ほめる	褒める	△誉める
		奮い立つ	ほんとう	本当	本当の話，本当に
ふるって	奮って	奮って参加ください	【ま】		
		い	まいしん		△邁進
ふれあう	触れ合う		まぎわ	間際	出発間際
ふれる	触れる				

見出し	表記	備考	もと	下	法の下に平等 ～という理念の下
めいめい	銘々	銘々に分ける		元	火の元，出版元
めいりょう	明瞭			本	本を正す
めがね	眼鏡			基	資料を基にする
めぐる	巡る	寺を巡る	もの	～もの	基づく
	めぐる	課題をめぐって			正しいものと認める
めざす	目指す	△目ざす		物(物体として 存在する物)	～を示すもの
めざましい	目覚ましい			者(人間)	物を大切に扱う
めった	めった	△滅多		最寄り	18歳未満の者
		めったやたらに	もより	もらう	最寄りの駅
めでたい	めでたい	△目出度い	もらう		△貰う
めど	めど	△目処			～してもらう
めやす	目安		もらす	漏らす	本音を漏らす
めんどう	面倒	御面倒をお掛けし ます	もろもろ	もろもろ	△諸々
【も】			【や】		
もうしあげる	申し上げる		やかましい	やかましい	△喧しい
もうしあわせ	申合せ	申し合わせる	やくわり	役割	
もうしこむ	申し込む		やさしい	易しい	易しい問題
もうしこみ	申込み	申込書		優しい	優しい心遣い
もうしわけ	申し訳		やすい	安い	
もうら	網羅			～やすい	△易い
もくと	目途	年末完成を目途と する	やっかい	厄介	読みやすい
			やむをえず	やむを得ず	
もくろみ	もくろみ	△目論見	やわらかい	柔らかい	柔らかな毛布
もし	もし	△若し			物柔らかな態度
もしくは(接続詞)	若しくは	a 若しくは b		軟らかい	表情が軟らかい
もたらす	もたらす				軟らかな土
もちろん	もちろん	△勿論	やわらぐ	和らぐ	気持ちが和らぐ
もつ	持つ	荷物(物体)を持 つ	【ゆ】		
	もつ	責任(物体以外) をもつ	ゆいしよ	由緒	
			ゆうゆう	悠々	悠々自適
			ゆえ	故	故あって，故なく
もって	もって	△以って		～ゆえ	一部の反対のゆえ
		～をもって			にはかどらない
もつとも	最も	最も大切			それゆえ
	もつとも	もつともな御意見 です	ゆえに(接続詞)	ゆえに	ゆえに，～
					△故に
もつぱら	専ら	専ら仕事に力を入れる	ゆがむ	ゆがむ	△歪む
			ゆくえ	行方	行方不明

見出し	表記	備考
ゆだねる	委ねる	
ゆるむ	緩む	緩やかだ
【よ】		
よい	良い（評価）	
	よい	よい点，よりよい 都合のよい，よい こと，よい機会 （指導要領の表現）
	～（て）よい（許可）	連絡してよい
	善い	善い行い
よけい	余計	費用が余計に掛かる
よごれる	汚れる	
よほど	よほど	△余程
よりどころ	よりどころ	△拠所
よる	よる	△依る，因る これによってよい
よろしく	よろしく	△宜しく
【ら】		
ら	～ら	△～等 これら，我ら
【り】		
りっぱ	立派	
【る】		
るす	留守	
【れ】		
れんが	れんが	△煉瓦
【わ】		
わが	我が	我が国，我が家
わかる	分かる	△解る，判る 気持ちが分かる
わけ	訳	訳がある，申し訳 ない
わずか	僅か	
わずらう	煩う	思い煩う 人手を煩わす
	患う	胸を患う
わたくし	私	私事
わたし	私	

わたる	渡る	橋を渡る
	わたる	2行にわたる
		細部にわたる
わびる	わびる	△詫びる
わりあい	割合	
わりに	割に	
われ	我	我々，我ら

☆ 複合の名詞の場合，送り仮名を付けずに書くことができる。

受入れ	受渡し	打合せ	置場
買物	書換え	貸出し	期限付
組合せ	組替え	組立て	条件付
立会い	問合せ	取扱い	取決め
取消し	話合い	引継ぎ	見合せ
見積り	申合せ	申入れ	申込み
申立て	申出	持込み	呼出し
受付	奥付	貸出	箇条書
出入口	手続	手引	手引書
取組	日付	見取図	申込書
物語	役割		
			など

※ 同一論文中では，表記を統一する。

参考：送り仮名の付け方について

「法令における漢字使用等について」

（平成22年11月30日付け内閣法制局長官決定）

【付録】 公用文における漢字使用等について (文化審議会国語分科会作成) から抜粋

1 次のような代名詞は原則として漢字で書く。

＜例＞ 俺, 彼, 誰, 何, 僕, 私, 我々

2 次のような副詞及び連体詞は, 原則として漢字で書く。

＜例＞ 副詞

余り, 至って, 大いに, 恐らく, 概して, 必ず, 必ずしも, 辛うじて, 極めて, 殊に, 更に, 実に, 少なくとも, 少し, 既に, 全て, 切に, 大して, 絶えず, 互いに, 直ちに, 例えば, 次いで, 努めて, 常に, 特に, 突然, 初めて, 果たして, 甚だ, 再び, 全く, 無論, 最も, 専ら, 僅か, 割に

＜例＞ 連体詞

明くる, 大きな, 来る, 去る, 小さな, 我が(国)

ただし, 次のような副詞は原則として仮名で書く。

＜例＞ かなり, ふと, やはり, よほど

3 次の接頭語は, その接頭語が付く語を漢字で書く場合は, 原則として, 漢字で書き, その接頭語が付く語を仮名で書く場合は, 原則として, 仮名で書く。

＜例＞

御案内(御+案内), 御挨拶(御+挨拶),
ごもつとも(ご+もつとも)

4 次のような接尾語は, 原則として仮名で書く。

＜例＞

げ(惜しげもなく), ども(私ども), ぶる(偉ぶる),
み(弱み), め(少なめ)

5 次のような接続詞は, 原則として, 仮名で書く。

＜例＞

おって, かつ, したがって, ただし, ついては,
ところが, ところで, また, ゆえに

ただし, 次の4語は, 原則として漢字で書く。

及び, 並びに, 又は, 若しくは